

# Campus Today



松本歯科大学

発行所 学校法人 松本歯科大学  
長野県塩尻市広丘郷原1780  
☎(0263) 52 - 3100  
www.mdu.ac.jp  
1部100円

## 枝歌

あ、渺々の蒼穹に

作詞 矢ヶ崎康  
作曲 山本直純

一、あ、渺々の蒼穹よ

いまも明け行く 佳境の光

白雪吼ゆる 気流の響き 雲峰よ

理性の耳よ 澄ましき

夜風の歌と 国手の歌と

自由の響きよ いや 歌はあり

いざや 探らん 世界の蒼穹よ

いざや 究めん 無限の法則と

二、あ、深奥の 溪谷よ

今も花の川 草野の香り

奈良の川 悠久の歌よ

理性の光と 同き心

群け 遠征家 心ゆく 思考

自由の身よ わが 魂よ

いざや 探らん 世界の蒼穹よ

いざや 究めん 無限の法則と

三、あ、新麓の 紅染よ

いまも 染めゆく 秋葉の赤さへ

深空よ 映ゆる 三色の虹よ

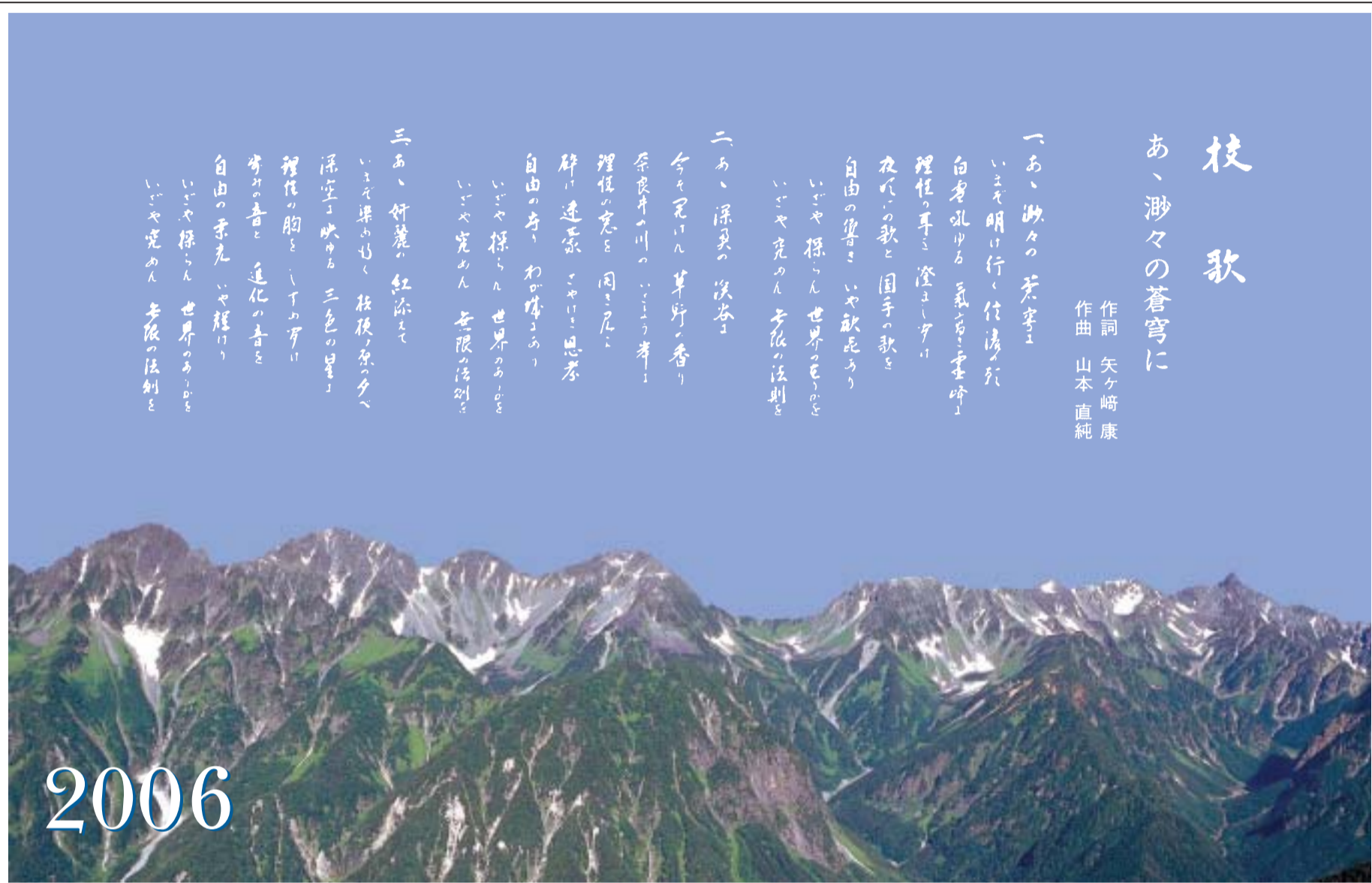
理性の胸よ 下す 声

奇跡の音と 進化の音と

自由の赤丸 いや 輝け

いざや 探らん 世界の蒼穹よ

いざや 究めん 無限の法則と



# 2006



## 今の日本のムードは

### おかしくはないですか

創立者 理事長

# 矢ヶ崎康

あけましておめでとございませう

早くも一年が経過しました。枯葉が風に吹き流されて樹木の間を通り抜けて行きます。最近では年齢の所為か一年が年毎に短く感じられます。それにつれ仕事のほうも次第に抄らなくなつて参りました。社会の変動が目まぐるしいのも一因かもしれません。一つ一つ誤りなきよう皆様に扶けられながらこなして行く所存であります。

ご承知の通り昨年は国際的に自然災害の多い年でした。一昨年(十一月二十六日)に続く二回目の三月スマトラ沖超大型震災や米国南部のルイジアナ州一帯の二度に亘る超大型ハリケーンの来襲などでした。地球温暖化現象はその他考えられないような変化を地球に齎してしま

す。日本も負けじと各地で大型台風被害に見舞われました。特に福岡県では西方沖地震と共に土砂崩れなどで甚大な被害を蒙りました。自然現象にはまだ止むを得ないものがありますが、現今日本の社会には中央の政界から未熟な少年に至るまでの間に、腐り果てた許し難い犯罪が無数に転がっています。

本紙十一月一日号に「住みづらくなつたニッポン」と題して、郵政民営化問題と米国の言いなり放題になつていく政情について述べておきました。このことは一九九四年以来、日米両国政府間において互いに提示し合つていく、年次改革要望書なる外交文書のなかで約束されたものであり、基本的には米国資本を利する目的で日本の市場を解放させることから生まれてきています。いま日本の医療保険制度が大きく揺らいできていますが、そのことも米国の製薬業界、医療機器業界、保険業界により、市場の解放を余儀なくさせられている文芸春秋十二月号、奪われる日本(参照)から他なりません。このように日本が知らぬ間に外国に売られ、それに連動していつの間にかすべての業界にこれが波及して次第に思考力を喪失し、憲法改変と相俟つて再び

悲惨な滅亡が訪れるとしたらどうしましよう。耐震強度偽造問題などもすべて同じ根の、他を顧みないエゴイズムから端を発しています。

そんななかの少し明るいニュース。去る十一月二十一日、本学では教授会の努力が文科省により見事に認められました。二〇〇五平成十七年度C/B/T全国問題公募に関する文科省採択率決定に際し、本学各講座において夜中までよく研鑽努力して作り上げた所定提出問題が、全歯大(二十八学部)中、数及び文科省の採択率と共にトップであったということでもあります。

目下教授会は卒業生の最後の追い込みで話をする余裕もありませんし、病院長はまた研修医問題で大変であります。学生は昔の医学生と違って奇妙な所で悩まされて可哀そうにも思われますが、これもしばらくは必ず良かった時代に還元するものと信じています。

去る十月四日より月二回、全八回の予定で田中康夫客員教授より学生に対する講義をお願いしています。最初は対象が第一学年ですので、多少難解だったかとも思っております。塩尻の小口利幸市長もよく聴講され心から感じ入つておられました。折角の名講義、やはり聴く(耳)哲学(は)小学五年生位から極くやさしい基本から養つて行くべきで、中学生ではテストなしでよいからやさしい哲学史ぐらいあつてもよいし、高校では必修とすべきでしょう。思考力不足のまま大学に来られて困るのは大学のほうなんです。

原稿締め切りの本日、ニュースが入りました。アメリカの要請でまた自衛隊のイラク駐在が一年延びたかです。近くイギリスやオーストラリアも引き上げるといふのです。イラクの抵抗は飽くまで身を挺したレジスタンスであり、単なるテロルではありません。他人ごとで自衛隊を駐在させ、国際関係がおかしくなつたり、世界史に汚名を刻まれて困るのは私も国民なのです。日本中が静かになつてくれることを心から祈念しています。

本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

第三種郵便物認可

# 永田町便り (125)



調を合わせるかのように「護衛艦でサバイバルゲーム、いじめ自衛官懲戒免職」という記事も報道されていた。

報道によれば、自衛隊の内部で数人の隊員が、エアガンを使用してサバイバルゲームを楽しんでいたというものである。単

なる規律違反を超えて、そこで日常茶飯のように行われていることが、公務員たる者の守るべき域をはるかにオーバーしてまさに暴力団そのままの行動形態といつても間違いない。

本当にこれがわが国の安全を生命を懸けて守っている者たち

## 自衛隊員の薬物中毒

参議院議員 本学理事

### 法藤道夫

万八千五百七十九人となつてい

その一方で自衛官の自殺も多

自衛官となれば、そのほとんどが元氣はつらつ国の防衛に生命を投げ出しがらばつているものと当然思いがちだが、必ずし

命を投げ出しているとはばかり思

防衛大学は将来の自衛隊の幹部たらんとする若者たちを集めたものであり、かつての陸軍士

学を受験し、一応合格したので、入学してみたものの肌合が合わない、面白くない、他の大学の方が将来性があるなどの理由から中途退学してしまう者が多いのはどう考えればいいのか。

古い言い方になつてしまつが「生命を懸けて国を守る」とい

言学校や海軍兵学校と同じように考えてもよいように思われるが、それが自衛官としてや

つていく自信がない、性格が合わない、学力・能力不足などを理由として中途退学する者が極めて多い。

深く考えることなしに防衛大

う言葉が基本となつて若者が集まり、そのような「生きざま」を習得して、やがて国防衛の第一線でがんばることが絶対に必要な任務であるの思いはど

こへ行つてしまったのだからか。

「なんとなく楽しそうなので入学した」「入つてみるとさつぱり面白くない」と語る防衛大学の中途退学者数は倍増の傾向にある。

こんなことでこの日本という国の防衛はどうなつてしまつのか。

なんといってもその責任はあまり極まりない国防概念を打ち出し、学生にもその実態を示さず、国民に対してさえも「戦前とは違います。自衛隊は全く安全そのものの態勢にありま

す。各国の軍隊と同じに考えな

れる患者の立場では、とても安い」とは感じられないかもしれ

ないが、それは患者負担の割合が高いからである。

週刊社会保障編集部編「欧米諸国の医療保障」によれば、医療費に対する患者の実効負担率は、イギリスの二〇％、スウェーデンの三〇％に対して、わが国ではなんと五十六％にも達している。

こうしたことが生じた一因は本来は社会保障の重要な一環として医療費の一部を負担すべき国と事業主の保険料の割合が年々引き下げられていることにあるよつた。

このような実態を、患者＝国民にきちんと伝えていくことが、医療に携わる者の緊急な課題である。「医者は儲かっている」といふ悪宣伝に対しては、低い診療報酬と不合理な審査によつてまともな医療が苦しめられていて、「病院倒産」が続発している実情を明らかにしていかなければならない。

「総医療費三十兆円超」とい

いようにしてください。安全第一、否安全しか気にしない集団、それが自衛隊です」と宣伝しているのが、現在の自衛隊であると考えると決して間違っていない。

その自衛隊がイラクに駐留して一体何をしているのだからか。

現地住民との融和と友情を高く掲げて食料の支援をしていることは分かるが、それが本来の戦う集団のやるべきことなのだろうか。

そういうことについてはもうと上手に能率的にできる人たちが民間人の中にも多くいるだろう。

本来戦いの集団である自衛隊のあるべき姿についてもう少し真剣に考えてみるべき時がきているのではないかと。

このは巨額には見えるが、パチンコ業界の総売上上げ、三井や三菱などの大商社一社の取り扱い高などと大差ない数字である。

強力な抑制策を講じなければやがてGDPをも追い越しかねないとする厚生労働省の医療費予測も眉に唾をつけたほうがよい。少子化が進行して次の世紀には日本人は三人だけになるといった統計マジックなのだ。

医療、構造改革を前にして、まずは十分な情報を収集し、それにもとづいて周囲の人びと話し合つてみてほしい。

個人負担増による受診抑制は、病気の早期発見、早期治療の機会を失わせることで、長期的に見れば逆に医療費の増大につながりかねない。

不合理な低医療費と官僚統制は、医療従事者の士気を低下させ、患者が納得・満足できる医療の実現を遠ざけてしまつた。

これからの日本の医療はいかにあるべきかを、今こそ真剣に考えてみるべきだろう。

(笠原 浩)

もそつではないから問題はなおさら深刻である。

自衛官の自殺者総数は二〇〇三(平成十五)年度では、陸上自衛隊四十八人、海上自衛隊十七人、航空自衛隊十人、計七十五人に達している。

全力を振り絞つて国を守り、

なのだろつかと思いたくなくなつてくる。

自衛隊員は一体何人いるのか。内訳は陸上自衛隊員十四万六千六百九十人、海上自衛隊員四万四千三百九十人、航空自衛隊員四万五千三百九十人、統合幕僚会議千七百七十人、合計二十三

なのだろつかと思いたくなくなつてくる。

自衛隊員は一体何人いるのか。内訳は陸上自衛隊員十四万六千六百九十人、海上自衛隊員四万四千三百九十人、航空自衛隊員四万五千三百九十人、統合幕僚会議千七百七十人、合計二十三

なのだろつかと思いたくなくなつてくる。

自衛隊員は一体何人いるのか。内訳は陸上自衛隊員十四万六千六百九十人、海上自衛隊員四万四千三百九十人、航空自衛隊員四万五千三百九十人、統合幕僚会議千七百七十人、合計二十三

なのだろつかと思いたくなくなつてくる。

自衛隊員は一体何人いるのか。内訳は陸上自衛隊員十四万六千六百九十人、海上自衛隊員四万四千三百九十人、航空自衛隊員四万五千三百九十人、統合幕僚会議千七百七十人、合計二十三

なのだろつかと思いたくなくなつてくる。

自衛隊員は一体何人いるのか。内訳は陸上自衛隊員十四万六千六百九十人、海上自衛隊員四万四千三百九十人、航空自衛隊員四万五千三百九十人、統合幕僚会議千七百七十人、合計二十三

## 主張 迫りくる医療「構造改革」

総選挙での大勝を背景として、小泉内閣による「構造改革」が強引な手法で押し進められている。まずは、さまざまな議論を押し切つて、首相念願の郵便事業の民営化が実現されつつあるが、次の改革目標が「医療」という話になると、うかうかとしていくわけにはいかない。

厚生労働省は「医療制度構造改革試案」を昨秋に発表した。中長期と短期的な抑制策で、二〇二五年度の医療保険給付費を五十六兆円から四十九兆円まで七兆円圧縮できるといふ。

要するに、国からの「給付」を減らす一方、保険料の引き上げ、一部負担金の増額など患者・国民の「負担」を大幅に増やすことで医療保険の「財政再建」を果すという計画だ。

そればかりではない。「保険

導入対象外」の医療が基本的な医療システムに組み込まれようとしている。「混合診療(保険診療と保険外診療の併用)」の推進がまさにそれであり、「保険免責制(軽い病気を一定額まで自己負担とする)」の導入も検討されている。

そもそもわが国の医療システムの基本は、国民の権利としての「健康で文化的な生活(憲法二十五条)」を保障するための公的医療であり、「国民皆保険制度」であったはずである。それがいつの間にか、高額な健康保険料や国民健康保険税を徴収されているにもかかわらず、ある程度のお金を持たなければ受診できない仕組みにされてしまった。

高齢者を例にとれば、老人保健法発足当初には病院の窓口での支払いが必要な一部負担金

原則無料だつたのに、外来受診一回ごとに三百円、五百円、八百円、千円と引き上げられていて、現在は一割負担、やがては三割になるといふ。

「保険免責制」が導入されれば、四〜五割の実質負担となるから、低所得の年金生活者などは少々具合が悪くても受診しなくなるだろう。団塊世代の高齢化に焦点を当てた露骨な受診抑制策だといわざるをえない。

どうやら政府当局者や財界は「民間活力導入、官から民へ」という小泉内閣の掛け声の下に、医療についても「金がなければ医者にかかれぬ」というアメリカ型の市場経済に移行したいらしい。それを最も端的に示しているのが、昨年十一月十七日の社会保障審議会医療保険部会での経団連出身委員による「国

医療保険財政の困難が生じた原因として、官僚たちはともしれば高齢者の安易な受診(病院が老人サロン化している?)と医者の「乱診・乱療」による医療費の高騰を口にする。

保険点数の改定期になると、悪徳医者や不正請求の存在などを大々的にマスコミに取り上げさせるなどの世論操作も行われているように思われる。

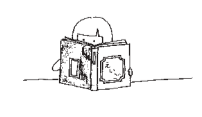
しかし、わが国の医療費そのものはけつて高くない。二〇〇三年の国内総生産(GDP)に対する医療費の比率(OECDヘルスデータ)で見れば、世界第二位のGDPを誇る日本はわずか七・九%と先進国中では十八位にすぎない。ちなみに第一位のアメリカは十五・〇%と約二倍である。

病院の窓口で支払いをさせら

新年おめでとうございます。先月号で「ぼっち」について話をしましたが、今年はい又年というところで、今回も引き続き「ボチ」について考えてみたいと思います。日本語で伝統的な犬の名前は「?と聞かれると、「ボチ」をあげる人が多いようです。語源については色々な説がありますが、小さい点の意味、フランス語の petit(プチ)、英語の pooch(俗語で犬のこと)などとなっています。

実は私は初めて「ボチ」と聞いたとき、英語の pooch に似ているので、逆に、ひよつとする「ボチ」が pooch の語源かな? と思いましたが、この「ボチ」は比較的最近の二十世紀初頭になって広く使われ始めた言葉だからです。でも、日本語の語源辞典によれば、ボチは明治三十四年(一九〇一年)に流行したとありますので、ほぼ同じ時期に広まったということになり興味深い現象です。

さて、実際は自分の犬にボチという名前をつける人はほとんどいないようですが、同じことが英語の犬の名前にも言えます。アメリカ人に典型的な犬の名前はと聞くと、多分 Fido(フィド)や Rover(ウロウロ歩く)などをあげるかもしれませんが、これらは実際にはほとんど使われません。ちなみに、最近のペット名の人気ランキングでは、英・米・オーストラリアでは Max・Sam など、メス犬は Lucy・Molly となっています。日本語では、オス犬に「コロ」、「チビ」などに交じつて、ジョンというのがありました。なぜ「ジョン」なのかは、ちょっとよく分かりませんが、





# あけまして おめでとございます



## 法人役員



理事 川原 一祐



理事 香西 敏男



理事 小澤 英浩



理事 田中 正治



理事長 矢ヶ崎 康



理事 小出 久



理事 西連寺愛憲



理事 佐藤 道夫



理事 高瀬 吉雄



理事 橋口 綽徳

あけましておめでとうございます。正月はいつもとは異なる改まった時が流れるような気がします。松本平から仰ぎ見るアルプスの峰々も常念岳の優雅な姿を中心に白く輝き、年の改まりを祝っているように見えますが、混沌とした人間社会の愚かな営みを人間の叡智で「改めよ」と諭している様にも思えます。「改」とは「己をして自ら反省し、自ら良心や志の鞭を持つてあるべき姿にただしてゆく」とことされ、新たな年を迎えるに当たりこの言葉を今一度噛みしめてみたいと思います。

このころ、地球は地震・台風などに高頻度かつ強烈な勢いで見舞われており、天変地異が一挙に襲ってきた感があります。幸いにして本学は特段災害にもあわず、新学生寮や新病院の建設など大きな夢と希望を抱きながら、新年を迎えることができましたことは何よりと喜んでおります。

大学は今、国家試験をはじめ、CBT、OSCEと称される共用試験や歯科医師臨床研修制度の実施に対応すべく、全教職員は一致協力して努力を傾けております。それらの根幹をなす学部カリキュラムの改革はカリキュラム委員会を中心に一昨年より検討が進められ、「考える力」を養うためのPBL教育など、いよいよ本年四月から具体的な実施に移ります。また、四月からスタートする新入生のための学生寮も生活態度、学習習慣、将来歯科医師

として不可欠なコミュニケーション能力などを身につける場として機能することが期待されます。

教育の質的向上と保証を求める教育改革には、学生・教員ともにモチベーションの高揚が重要であり、積極性とともにも構想力・実行力も不可欠です。教育の質を高め、歯科医療の質の向上を目指した共用試験については試験問題を毎年全国公募していますが、本学は昨年その採択率が日本一になりました。このことも、本学教職員の優れた構想力と実行力に裏付けられた教育改革への積極的な取り組みの結果を示しており、誇りに思うものであります。

大学院の母体組織であり、本学の研究拠点としての役割を果している総合歯科医学研究所は、今や手狭になるくらい研究者・大学院生などで活気に溢れています。外部資金の導入も潤沢で、科学研究費の採択率、研究費も一昨年に引き続き私立歯科大学・歯学部ではトップグループの座を占めることができました。本研究所に関しては地域の企業や県内の大学も注目しており、多くの企業・研究機関との産学官協同研究も盛んになりつつあります。器官再生の国際研究プロジェクト（ICORP）も三年目に入り、昨年は本学での研究会議も開かれ、いよいよこれからの飛躍が期待されます。

歯科医師臨床研修制度がいよいよスタートしました。この制度には国公私立間の不平等性や医師との格差など様々な問題点が指摘されていますが、待ったなしの状況でマッチングも終り、いよいよ最終段階に至っており、本学では順調に研修制度への対応が進行しております。現在、設計段階にある新病院は、医科も含めた総合病院でありますが、そこにも新しく卒後研修の場が設けられ、今後はハード的にもこの制度に十分対応できる見通しがついております。なお、この場をお借りして、研修歯科医師の協力施設などで大変お世話になりました歯科医師会並びに校友会の皆様にも厚く御礼を申し上げますとともに、今後とも一層のご協力をお願いする次第であります。

本学大学院歯学独立研究科は、学年進行三年目が終ろうとしており、この四月からはいよいよ第一期生が最終学年を迎えます。本大学院は特色ある大学院として国内はもとより、国際的にも注目を集めており、院生はもとより、研究指導に当たる教員も身の引き締まる思いで新年を迎えたことと思えます。嬉しいことに、既に優れた学位論文を提出し、規定により三年で大学院を修了予定の大学院生もおり、近々本学最初の学位審査が行われる運びとなっております。

皆様にあって新しい年が素晴らしい希望に満ちたものになりますよう、心より祈念して新年のご挨拶といたします。



## 新しい年に更なる進歩・発展を願って

学 長 小澤英浩

### 実り多き成果を結ぶ

中華人民共和国 河北省衛生庁 庁長 王 玉梅



新年を迎えるにあたり、河北省衛生庁を代表し、尊敬する松本歯科大学創立者矢ヶ崎 康先生、小澤英浩学長および教職員の方々に謹んで新春のお慶びを申し上げます。

過去二十数年にわたり、我々は双方の協力の下、人類の健康という輝かしい事業において、厚い友好関係と中日友好の大業のため尽力を重ねてまいりました。この場を借りて貴大学の長年にわたる我が省口腔医学事業に対する御支援と御協力の衷心より感謝申し上げます。未来を展望すれば、希望に満



ちた新年において、我々の交流・協力がさらなる発展を継続する事を確信しております。すでに深く根ざした友好の太木はより一層実り多き成果を結ぶでしょう。

### 優しさ・確かさ・美しさ

長野県知事 田中康夫



「総合愛産産業としての歯科医学」と題し、秋口から隔週で担当する公開講義で繰り返し、科学哲学者のマイケル・ポランニーが提唱してきた「暗黙知」の重要性を語ってきました。明確に言葉で言い表せはしないが例えれば名医の診断に象徴されるように、科学的創造性を支える身体を基盤とした知識、と物の本に記されています。法律や手続といったマニュアルを超えた「勤性」と同義です。

以前にも増して、「勤性」が求められているのだと思えます。「智性」という知識や経験に立脚した上でさらに、物事を推し量る「勤性」。加えて、相手の目線に立つて慮る「温性」。歯科医療の現場で患者の方々と接する卒業生の皆さんは日々、そうした意識の大切さを実感しているのではないのでしょうか。にも拘らず、世の中を見回すと昨今、想像力を持ち合わせぬ儘に、政治も経済も社会も、新自由主義という錦の御旗を掲げて、優勝劣敗的な傍若無人さが横行しています。

### 交流20周年を迎えて

中華人民共和国 河北医科大学 学長 蔡 文清



二〇〇六年新春を迎えるにあたり、河北医科大学を代表し、創立者矢ヶ崎 康先生をはじめ松本歯科大学全教職員および学生の皆さまに、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。また、新たなこの一年間により多くの成果をあげられますことを願っております。

二〇〇六年は両大学の姉妹校締結二十周年の記念すべき年です。この二十年を回顧すると、創立者矢ヶ崎 康先生をはじめとする松本歯科大学の諸先生方によるご尽力を忘れることは出来ません。とりわけ、数年にわたる相互訪問、教学、友好交流は多くの実績をあげてまいりました。



### コラボレーションを明確に

アメリカ合衆国 インディアナ大学 歯学部長 L. I. ゴールドブラット



インディアナ大学を代表して、松本歯科大学の教職員および学生の皆さまへ素晴らしい新年のご挨拶を申し上げますこと、この上なく誇りに思っております。

今、世界各地において起きていられるさまざまな出来事は各個人にとつてもその影響は重大であり、それは人々の間に偽りの距離をつくり出し、さまざまな影響を引き起こしています。それ故、歯科教育とリサーチの発展という崇高な使命における我々の長年にわたる友情とパートナーシップをこのように祝う機会

というものが特に重要になるのです。新たな情報の蓄積と、情報テクノロジーの進化によって許されるそれらへのアクセスが増えるにつれ、我々が、共に歯科医学の発展においてコラボレーションをより一層明らかにする必要があると。インディアナ大学全体として、この様な偉大なる使命のもと、貴大学との結びつきを継続していくことに誇りに思っております。

### 「3Kプラン」

松本市長 菅谷 昭



新年を迎え、皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。松本市では、今後の市政運営にあたり、福祉・医療を核とした「3K」を重点プランとして取り組むこととしております。

「3K」とは、頭文字にKのつく「健康づくり」「危機管理」「子育て支援」の三施策です。「3K」を通して、「暮らしてみたい・暮らしていきたいまち」「3Kが三つの希望」となるまちづくりをめざしますが、特に、最初のK「健康づくり」につきまして、歯科診療の先駆的、中心的役割を担っている松本歯科大学との連携はますます重要になってくると考えます。



小澤学長をお招きして開催した松本地区四大学学長懇談会の席でも、「地域、行政、大学のさまざまな分野での連携」の重要性が指摘されています。昨年、松本市では「松本市市民活動サポートセンター」を開設しました。大学から行政・地域への教育研究活動の成果を還元する場とするなど多様な利用を期待しています。松本歯科大学が松本地域の重要な学術・教育の府として、地域医療への一層のご尽力をお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

### 豊かな心を育む環境を共に築く

塩尻市長 小口利幸



謹んで新春のご挨拶を申し上げます。日ごろ、市政の発展に多大なご支援ご協力を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。貴大学におかれましては、アルプスを望む眺望のもと、信州の四季を感じとれる景観形成に努められると共に、最先端の医療設備や技術等教育環境により、社会に貢献し、人類の発展に寄与できる人間性豊かな人材の育成を基本理念として、次代や地域を担う優秀な歯科医師を育てておられます。さらに、大学病院においては、高度医療をはじめ、子どもや障害者歯科診療、休日や夜間の緊急診療等地域の保健医療業務に重要な役割を担っていただき、内外から高い評価を受けています。

今後、貴大学が持てる可能性をさらに広げられたいことを願ひ地域医療への変わりぬご支援をお願いすると共に、豊かな心を育む教育環境を共に築き上げていくことをお願い申し上げます。関係の皆さま方のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

# 特集 実を結ぶ産学官連携

## 画期的な歯科用洗浄針を開発

本学は以前より産学官連携による研究活動を積極的に推進してきたが、今その成果が上がりつつある。企業との共同研究や交流などを通して、歯科医療分野における材料や器具の開発が行われ、製品化される案件も多い。これまでの成果とともに、今後の展望を紹介する。

本学歯科保存学第2講座・山本昭夫 治療において患部を効果的に洗浄する  
教授、歯科補綴学第1講座・黒岩昭弘 新しい「歯科用洗浄針」を長野県内の  
教授、歯科保存学第1講座・音彦淳一 企業と共同開発したと発表した。  
助教授の研究グループは、去る十二月 歯科用洗浄針は、これまで歯内療法  
（私学会館）で記者会見を行い、歯科 の根管洗浄や歯周療法のポケット洗浄  
に用いられてきたが、単孔が二穴のもの



記者会見には多くの報道関係者が詰めかけた

のが一般的で、薬液の噴出力が弱く、液垂れを起し、十分な洗浄効果を得られないなどの欠点があった。共同開発は、岡谷市の精密機器製造・株式会社みくろに工業が自社の技術を活用して既存の歯科用洗浄針の問題点を解決できないかと、と財団法人・長野県テクノ財団を通じて本学へ相談を持ちかけたのが始まり。二〇〇四年には本学と企業とのプロジェクトチームが発足し、技術会議を毎月開いて穴形状と穴数、操作性（洗浄に必要な圧力）などを検討、研究開発を続けてきた。

新たに開発した洗浄針は、針の側面に特殊技術を施した三つの穴が開けられており、低い圧力で三方向へ水平に液を噴出させて優れた洗浄効果を実現している。

記者会見ではまず黒岩教授が、このような開発の経緯と新しい洗浄針の特徴を説明し、私たち歯科医療現場からのニーズと企業の技術シーズを融合させて、製品化ができた」と、産学官連携の成果を強調した。



3方向への水平噴出が可能



スパイラル形状の洗浄針も開発

続いて山本教授は、歯内療法における根管洗浄について解説し、従来型洗浄針と開発した洗浄針による洗浄比較データを発表。臨床実験の結果、開発針は根管内壁全周において削片や消毒剤をきれいに洗い流すことができた」とし、洗浄効果の優位性を明らかにした。

### 開発商品の受注相次ぐ

歯科用洗浄針は産学官連携の代表例といえるが、本学ではこのほかにも特筆すべき成果を上げている。

昨年、大学院硬組織疾患制御再建学講座の新井嘉則教授が医療機器製造・株式会社リカから共同開発した「実験動物用マイクロCT」は、国内の大学や研究機関、製薬会社から受注が相次いでいる。

歯科理工学講座の吉田貴光講師が開発した「歯科用インプラント材の衝撃試験機」は、塩尻市の機械製造・有限会社テクノアークによって製品化され、県内や福井県のインプラントメーカーに販売された。また、大学院顎口腔機能制御学講座の増田裕次教授らの研究グループは「空気圧を利用した口唇閉鎖力測定装置」を地元企業と共同開発し、本年初めには完全製品化し販売される予定。この二件は本学が塩尻市と共同で設立した松本歯科大学・塩尻市産学連携支援センターが推進役を務め、塩尻市から補助金を受けたものである。同センターの赤羽達郎コーディネーターは「大学と地元企業との結びつきをさらに深めたい」と語っている。

ツットの洗浄効果が高く、洗浄速度も速い。また歯科医師の個人差・患者の症例に関係なく誰もが簡単に扱える」などの長所を総括した。また、スパイラル形状の針や目盛りを付与した針も開発したことで、歯周ポケットの治療がより正確で効果的に行えることも語った。

実験動物用マイクロCT



伊藤教授は、「関東経済産業局や県テクノ財団、塩尻市など多くの公的支援を受け、産学官連携の環境が整ったことに感謝している。歯科医療技術研究会や産学交流ネットワークなどを通じて、県内企業の確かな技術力と底力を知った。成果は着実に上がりつつある」と語り、若い研究者に積極的な参加を呼びかけて、研究開発に一層の意欲を示す。

### 地域経済の活性化に貢献する

二〇〇六年、本学は文部科学省が推進する知的クラスター創成事業への参画も検討している。これは地方自治体の主体性を重視し、知的創造の拠点である大学を核に研究開発型企業と連携して国際的な競争力のある技術革新を目指すシステムで、地域経済の活性化に貢献するものである。

現在も、多くの産学官プロジェクトが進行中であり、歯科理工学講座の伊藤充雄教授の研究グループは、国から中小企業創業・経営革新等支援補助金を受け、「生体インプラント材の表面性状に対する研究」において安全性試験を行っている。これはインプラント材の表面を特殊な酸性溶液で被膜を形成して腐食電流の発生を抑え生体親和性を高めるもので、医療機器製造・株式会社ヨシオカが事業化する予定だ。

このほか伊藤教授の研究グループは、骨形成に効果がある飲料の商品化や新技術による人工関節の開発、特殊な成形法によるセラミックスの歯科への応用、歯髄の蒸散に利用できる極細のCO<sub>2</sub>レーザー用チップの製品化などを目指しており、開発案件は目白押しである。

伊藤教授は、「関東経済産業局や県テクノ財団、塩尻市など多くの公的支援を受け、産学官連携の環境が整ったことに感謝している。歯科医療技術研究会や産学交流ネットワークなどを通じて、県内企業の確かな技術力と底力を知った。成果は着実に上がりつつある」と語り、若い研究者に積極的な参加を呼びかけて、研究開発に一層の意欲を示す。



知的クラスター創成事業の検討会議

### お天気歳時記

元日本気象協会調査役  
お天気コンサルタント

有賀 淳

「お山は雪だんべ」落語の権助狸ではないが、冬の太平洋側は青空の下を寒い北西の季節風が吹きぬける。このとき日本海側では雪が降り、「お山」は大雪山となる。日本列島の冬は光と影にあざやかに二分されてしまふ。

日本海側の雪は、日本ではごく身近におきている現象だが、広い世界からみると日本は比類がない豪雪地帯ということがいえる。日本は世界的な季節風帯として有名で、一月に最も吹きやすい。この風で日本海側に降る雪は、どこも同じに降るといふものではない。一般に北陸から奥羽西部にかけてが多く、山陰や北海道では割合少ないのがふつうである。季節風が海を渡ってくる距離の長短に関係があり、幅の広い地方ほど雪が降りやすく、大雪になりやすい。北海道は秋から初冬に多い。六日は小寒。この日から「寒」に入り、二十一日の大寒をへて、十五日目の節分の日までの約一カ月間を「寒」といい、「寒の内」ともいって寒さの底にあたる。歳時記で大寒のころをみると、「寒さの絶頂期だが、春も間近」とある。寒さの中にも日暮れの明るさが目立ち、「光の春」が育ち始めたことを知らせてくれる。

冬の太平洋側の乾燥はひどい。家の柱一本中の水分は真夏と比べてビールびん一本分くらい少なくなるほどで、家全体としてはドラム缶で何本というほど水分が少なくなる。それこそマッチ一本で直接柱に火がつく状態といえる。火の用心を。

海外 Report

モンゴル歯科事情

積極的な日本の

歯科国際協力に期待

特任教授 中田 稔

私は、二〇〇五年九月にモンゴルの首都、ウランバートルで開催されたモンゴル歯科医学会に招かれた。そこで特別講演を行うとともに、最新のモンゴル歯科事情に関して見聞を広めることができたので、ここに報告させていただきます。

モンゴルは中国とロシアに接し、広さは日本の四倍、平均高度千五百八十メートル。西北部は森林・湖・

河と四千メートル級の高山が連なり、南部はゴビ砂漠と大草原が広がっている。気温は年間でプラスマイナス四〇度と変化が大きく、厳しい自然環境にある。

人口はわずかに二百四十万人、そのうち三分の一が首都ウランバートルに集中するが、大半は今でも遊牧が中心で、家畜とともに草原を移動しながらゲルと言われるテントで生活している。歴史的には、ソ連でペレストロイカが始まると、モンゴルでも開放化政策が開始され、一九九二年、国号を「モンゴル国」と改め、資本主義国家として現在に至っている。一九七二年には日本と国交樹立し、医療援助等を通じて、わが国との親善は深まっている。



「口腔保健の日」国民広場には大勢の人々が詰めかけた



モンゴルの草原で

近年、社会主義から資本主義へ移行したことで、社会経済状況は急変し、急激な健康破壊が進んでいる。遊牧の習慣から、調味料は塩だけで油を多く摂取する食生活である。そのため肥満などによる生活習慣病が増えている。遊牧民が多かった頃は虫歯が少なかったが、資本主義になるとどんな地方でもキャンディーなど甘いものが普及するようになり、とくに子供たちに虫歯が増えている。

モンゴル政府は、歯科公衆衛生生活動に積極的に取り組むとして、ちょうど小生が訪問中の九月二十四日には、この国で初めての「口腔保健の日」の行事が、首都の国民広場で開催された。歯の健康優良者を表彰したり、歯科診療車を使って、広場で口腔診査を実施するなど、大いに賑わっていた。群衆の前で小生も壇上で一言あいさつをし、貴重な体験をすることができた。

同国には、約五百人の歯科医師がいるが、その殆どは首都に集中しており、現在、百軒くらいの歯科医院が開業している。急に自由化する国はどこでもそうであるが、ここも市

民の富裕層を対象ととらえる開業医が大半で、貧富の差による医療の不平等が広がっている。さらに、国民の大半は伝統的な遊牧生活を続け、一年中草原を移動している。医療の供給もままならない。国民の健康を守るには、何と云っても公衆衛生活動が基盤となるが、年中、野山を渡り歩く人々を相手にして、どんな方法を講ずれば良いのか、これは大問題である。例えば、日本のように狭い地域に人口が密集して、手を伸ばせば直ぐの所に医療機関があるというわけにはいかない。この国の事情を十分に考慮してどんな方法があるのか、一緒に考えてみたいものである。



モンゴル歯科医学会での筆者(右から3人目)

歯科教育は国立のモンゴル健康科学大学(定員五十人)と、最近できたばかりの私立Ach歯科大学(定員六十人)の二大学で実施されている。モンゴル健康科学大学の先進気鋭のアマルサイカン歯学部長をはじめかなりの数の歯科医師が、わが国に留学した経験があり、わが国の歯学教育や口腔保健制度が積極的に導入されている。

モンゴルに、韓国人や日本人の起源があるという人類学上の学説もある。私はかつて、シャベル型切歯やカラベリの結節などの解剖学的特長が、蒙古族と日本人の間で、とてもよく似ていることを確認した。私たちの同胞ともいえるモンゴルに向けて、日本からの積極的な歯科国際協力に大きな期待がかけられている。

スウェーデン留学

よく遊びよく学ぶのが

スウェーデン流

大学院第3学年 谷本英之

私は二〇〇四年四月より、スウェーデンのイエテボリ大学歯学部歯科放射線科に留学し、二〇〇五年十月に帰国した。一年半に及んだ海外留学の体験をここに報告します。

留学当初、不慣れな会話に私は戸惑っていた。フレンドリーなスウェーデン人と接するうちに、会話とは伝えようという気持ちがいま

科のグロンダール教授は、画像診断の権威として知られる。大学内は研究設備が充実し、センスのいい北欧家具が調えられていた。スタッフたちは朝八時前に出勤し、夕方六時頃に仕事を終える。その時間内で診療や研究、論文までこなす。残業はほとんどしない。

土・日、祝日は働かない。彼らは仕事と休みのけじめを明確にしている。まさに「よく遊び、よく学ぶ」を実践し、ゆとりのあるライフスタイルの中で仕事をしていると感じた。そうしたゆとりから発見や着想が生まれるのだろう。私が遅くまで仕事をしていると、グロンダール教授に「もう家に帰る時間だよ」とよく言われた。しかし、そういう教授本人は、誰よりも早く大学に来て誰よりも遅く帰る。スウェーデンではグループのトップに立つ人ほど、部下よりもよく働くというのが不文化のようだ。これも文化の違いか。



話は変わるが、彼らスウェーデン人の味覚には本当に驚いた。甘いものや塩辛いものといった過激な味を好む。激甘チョココレートケーキを生クリームで覆い隠すこと、塩辛い料理にさらに塩をかけることは当然のようであった。さて、留学時における私の主な研究は、CBCT(コンピュータを使用した教育用ソフト)を用いた研究であった。歯

科学者が学習用ソフトを楽しんでプレイし、クリアするころには学問に興味湧いている、というようなゲーム感覚のソフトをプログラムしていた。留学中に二本のソフトを作った。それらは二〇〇四年六月にスウェーデンのマルムで開催されたEADMF(European Academy of Dental Maxillo-Facial Radiology)で、二〇〇五年六月にドイツのベルリンで開催されたCARS 2005(Computer Assisted Radiology and Surgery)それぞれ発表された。後者の発表は論文にまとめることができた。また、イエテボリ大学が二〇〇五年八月にモリタ製作所の3DX Multi-image micro CT(フラットパネルを導入したため、そこで撮影されたケースからVolume Rendering(VR)による3D画像の制作が可能になった。帰国間際までその研究をして、多くの画像を制作し評価をすることができた。



イエテボリ大学歯学部

医局スタッフたちとランチタイム

このほど一六年度新カリキュラムが決定した。新たな特色のひとつは、第一学年にも自主学習支援教育(チュートリアル・システム)が採用されることである。少人数のグループごとに担当教員が濃密に学習指導を行うこのシステムは、学生が自学自習の姿勢を会得し、自己の目的意識を高め、六年間の修学設計能力を養うことを目的と

### 2006年度新カリキュラム

## 第1学年に チュートリアル・システム導入 MDU 問題作成システムも充実

また、PBLセミナーの選択範囲を拡大し、新たな教養・基礎・臨床の教科を導入し、学生参加型授業を今まで以上に推進させていく。

第二学年から第五学年までは、文部科学省が主導するモデル・コア・カリキュラムの項目に準じ、「医の原則」、「歯科医師としての基本的な態度」、「社会と歯科医学」、「生命科学」、「歯科生体材料と歯科材料」、「臨床歯科医学」の六項目に対応した講義形態を柔軟に構築していく。さらに、来年度九月より本格実施される臨床実習前の全国歯学系共用試験(CBT、OSCE)ならびに変化する歯科医師国家試験への対応も考慮して、講義内容・実習内容などを徹底的に吟味した結果、病院での臨床実習期間を第五学年時後期からの一年間とする。

また、昨年度より導入され効果

果をあげている第一学年から第四学年までのポストテスト・ウィークリーテスト、自主学習支援の問題作成は、本学独自のMDU問題作成システムで行っているが、このシステムの特徴は、全国歯学系共用試験(CBT)と同じフォーマットをとっていることで、教員が登録されている問題から任意に抽出、ポストテスト・ウィークリーテスト・自主学習支援の各システムを選択して問題の作成ができる。またeラーニング環境も整備され、学内においては学生が各自のノートパソコンを用いていつでもシラバスを開き講義内容の確認、予習が出来る環境を整えた。

本学の教育理念に根ざした理想的な教育システムの構築を来年度も全学あげて実現していく。



また、昨年度より導入され効果

果をあげている第一学年から第四学年までのポストテスト・ウィークリーテスト、自主学習支援の問題作成は、本学独自のMDU問題作成システムで行っているが、このシステムの特徴は、全国歯学系共用試験(CBT)と同じフォーマットをとっていることで、教員が登録されている問題から任意に抽出、ポストテスト・ウィークリーテスト・自主学習支援の各システムを選択して問題の作成ができる。またeラーニング環境も整備され、学内においては学生が各自のノートパソコンを用いていつでもシラバスを開き講義内容の確認、予習が出来る環境を整えた。

本学の教育理念に根ざした理想的な教育システムの構築を来年度も全学あげて実現していく。

また、昨年度より導入され効果

果をあげている第一学年から第四学年までのポストテスト・ウィークリーテスト、自主学習支援の問題作成は、本学独自のMDU問題作成システムで行っているが、このシステムの特徴は、全国歯学系共用試験(CBT)と同じフォーマットをとっていることで、教員が登録されている問題から任意に抽出、ポストテスト・ウィークリーテスト・自主学習支援の各システムを選択して問題の作成ができる。またeラーニング環境も整備され、学内においては学生が各自のノートパソコンを用いていつでもシラバスを開き講義内容の確認、予習が出来る環境を整えた。

本学の教育理念に根ざした理想的な教育システムの構築を来年度も全学あげて実現していく。

また、昨年度より導入され効果

果をあげている第一学年から第四学年までのポストテスト・ウィークリーテスト、自主学習支援の問題作成は、本学独自のMDU問題作成システムで行っているが、このシステムの特徴は、全国歯学系共用試験(CBT)と同じフォーマットをとっていることで、教員が登録されている問題から任意に抽出、ポストテスト・ウィークリーテスト・自主学習支援の各システムを選択して問題の作成ができる。またeラーニング環境も整備され、学内においては学生が各自のノートパソコンを用いていつでもシラバスを開き講義内容の確認、予習が出来る環境を整えた。

本学の教育理念に根ざした理想的な教育システムの構築を来年度も全学あげて実現していく。

また、昨年度より導入され効果

果をあげている第一学年から第四学年までのポストテスト・ウィークリーテスト、自主学習支援の問題作成は、本学独自のMDU問題作成システムで行っているが、このシステムの特徴は、全国歯学系共用試験(CBT)と同じフォーマットをとっていることで、教員が登録されている問題から任意に抽出、ポストテスト・ウィークリーテスト・自主学習支援の各システムを選択して問題の作成ができる。またeラーニング環境も整備され、学内においては学生が各自のノートパソコンを用いていつでもシラバスを開き講義内容の確認、予習が出来る環境を整えた。

本学の教育理念に根ざした理想的な教育システムの構築を来年度も全学あげて実現していく。

また、昨年度より導入され効果

果をあげている第一学年から第四学年までのポストテスト・ウィークリーテスト、自主学習支援の問題作成は、本学独自のMDU問題作成システムで行っているが、このシステムの特徴は、全国歯学系共用試験(CBT)と同じフォーマットをとっていることで、教員が登録されている問題から任意に抽出、ポストテスト・ウィークリーテスト・自主学習支援の各システムを選択して問題の作成ができる。またeラーニング環境も整備され、学内においては学生が各自のノートパソコンを用いていつでもシラバスを開き講義内容の確認、予習が出来る環境を整えた。

本学の教育理念に根ざした理想的な教育システムの構築を来年度も全学あげて実現していく。

また、昨年度より導入され効果

果をあげている第一学年から第四学年までのポストテスト・ウィークリーテスト、自主学習支援の問題作成は、本学独自のMDU問題作成システムで行っているが、このシステムの特徴は、全国歯学系共用試験(CBT)と同じフォーマットをとっていることで、教員が登録されている問題から任意に抽出、ポストテスト・ウィークリーテスト・自主学習支援の各システムを選択して問題の作成ができる。またeラーニング環境も整備され、学内においては学生が各自のノートパソコンを用いていつでもシラバスを開き講義内容の確認、予習が出来る環境を整えた。

本学の教育理念に根ざした理想的な教育システムの構築を来年度も全学あげて実現していく。

また、昨年度より導入され効果

果をあげている第一学年から第四学年までのポストテスト・ウィークリーテスト、自主学習支援の問題作成は、本学独自のMDU問題作成システムで行っているが、このシステムの特徴は、全国歯学系共用試験(CBT)と同じフォーマットをとっていることで、教員が登録されている問題から任意に抽出、ポストテスト・ウィークリーテスト・自主学習支援の各システムを選択して問題の作成ができる。またeラーニング環境も整備され、学内においては学生が各自のノートパソコンを用いていつでもシラバスを開き講義内容の確認、予習が出来る環境を整えた。

本学の教育理念に根ざした理想的な教育システムの構築を来年度も全学あげて実現していく。

また、昨年度より導入され効果

果をあげている第一学年から第四学年までのポストテスト・ウィークリーテスト、自主学習支援の問題作成は、本学独自のMDU問題作成システムで行っているが、このシステムの特徴は、全国歯学系共用試験(CBT)と同じフォーマットをとっていることで、教員が登録されている問題から任意に抽出、ポストテスト・ウィークリーテスト・自主学習支援の各システムを選択して問題の作成ができる。またeラーニング環境も整備され、学内においては学生が各自のノートパソコンを用いていつでもシラバスを開き講義内容の確認、予習が出来る環境を整えた。

本学の教育理念に根ざした理想的な教育システムの構築を来年度も全学あげて実現していく。

また、昨年度より導入され効果

果をあげている第一学年から第四学年までのポストテスト・ウィークリーテスト、自主学習支援の問題作成は、本学独自のMDU問題作成システムで行っているが、このシステムの特徴は、全国歯学系共用試験(CBT)と同じフォーマットをとっていることで、教員が登録されている問題から任意に抽出、ポストテスト・ウィークリーテスト・自主学習支援の各システムを選択して問題の作成ができる。またeラーニング環境も整備され、学内においては学生が各自のノートパソコンを用いていつでもシラバスを開き講義内容の確認、予習が出来る環境を整えた。

本学の教育理念に根ざした理想的な教育システムの構築を来年度も全学あげて実現していく。

また、昨年度より導入され効果

果をあげている第一学年から第四学年までのポストテスト・ウィークリーテスト、自主学習支援の問題作成は、本学独自のMDU問題作成システムで行っているが、このシステムの特徴は、全国歯学系共用試験(CBT)と同じフォーマットをとっていることで、教員が登録されている問題から任意に抽出、ポストテスト・ウィークリーテスト・自主学習支援の各システムを選択して問題の作成ができる。またeラーニング環境も整備され、学内においては学生が各自のノートパソコンを用いていつでもシラバスを開き講義内容の確認、予習が出来る環境を整えた。

本学の教育理念に根ざした理想的な教育システムの構築を来年度も全学あげて実現していく。

また、昨年度より導入され効果

果をあげている第一学年から第四学年までのポストテスト・ウィークリーテスト、自主学習支援の問題作成は、本学独自のMDU問題作成システムで行っているが、このシステムの特徴は、全国歯学系共用試験(CBT)と同じフォーマットをとっていることで、教員が登録されている問題から任意に抽出、ポストテスト・ウィークリーテスト・自主学習支援の各システムを選択して問題の作成ができる。またeラーニング環境も整備され、学内においては学生が各自のノートパソコンを用いていつでもシラバスを開き講義内容の確認、予習が出来る環境を整えた。

本学の教育理念に根ざした理想的な教育システムの構築を来年度も全学あげて実現していく。

## 優れた研究成果を発表 早期修了めざす



発表を行う武 郁子さん

## 第1回大学院研究科発表会を開催

第一回大学院研究科発表会が十二月一日(木)、実習館二階総合歯科医学研究所セミナー室において開催された。早期修了を目指す大学院(博士課程)第二学年の二人が、これまでの研究成果を発表した。

研究科発表会は、学位申請に伴うもので、大学院開設(二〇〇三年四月開設)三年目にして初めて行われた。研究発表は一人あたり、発表十五分・質疑十五分の計三十分の持ち時間で終わる。学位取得を目指す者の通過点の一つだ。

今回発表した院生が指している「早期修了」は、大学院に三年以上在学し、三十単位以上を取得し、かつ優れた研究業績をあげた者に認められるものである。

発表会は、大学院の院生や教員をはじめ、歯学部・研究所の教員ら約七十人が参加し、小澤

| 第1回研究科発表会の発表者・演題   |  |
|--|--|
| 1. 武 郁子 (硬組織疾患制御再建学講座 硬組織機能解析学)<br>「プロスタグランジン E2はヒト破骨細胞形成を強力に阻害する」<br>司会: 硬組織疾患制御再建学講座 教授 高橋直之   |  |
| 2. 飯田吉郎 (硬組織疾患制御再建学講座 臨床病態評価学)<br>「長顔型および非長顔型を伴う反対咬合の治療効果の長期観察<br>オートガイ帽装置を用いて」<br>司会: 硬組織疾患制御再建学講座 教授 出口敏雄  |  |
| 3. 中村雅明 (顎口腔機能制御学講座 生体調節制御学)<br>「Colocalization of serotonin and substance P in the postnatal rat trigeminal motor nucleus and its surroundings (三叉神経運動核におけるサブスタンスP・セロトニン共存終末の分布様相と生後変化)」<br>司会: 顎口腔機能制御学講座 助教授 安田浩一 |  |

らのさまざまな質問に答え、助言に耳を傾けた。司会は各発表者の主指導教員が務め、研究発表を見守った。

発表者が今後、学位論文審査を申し出た場合、学位論文審査と最終試験を経て、学位授与の判定を受けることとなる。

本年四月から大学院も開校四年目に入り、一

いて教員の指導を受けながら研究論文をまとめ上げる。これからはますます活発化する発表会、院生の素晴らしい研究成果が期待される。



学生と語り合ふ田中客員教授

学年生を中心に、教職員ら百三十人以上が詰めかけ、田中客員教授との語らいのひと時を過ごした。

開会に際し、学生を代表として第一学年生の牛嶋貴登君と大塚 拓君が「田中客員教授の講義は歯科医療のみに留まらず、普段接する機会のないさまざまな分野からのお話が豊富なため、私たちにしても貴重な時間となっております」と、謝意を込めたあいさつを述べると、田中客員教授がそれにこたえ、講義を通じて、患者さんが求める医療・歯科医療とは何か、理想を実現させるにはどのような心構えで学ぶべきかを理解していただきたいと述べた。

会は終始和やかな雰囲気の中で、本学と田中客員教授との絆が今まで以上に深まることとなった。

## 第6回 病院公開講座 岩崎助教授が 子どもの歯の健康をテーマに講演

第六回松本歯科大学病院公開講座が十二月十日(土)午後、図書館学生ホールで開かれ、小児歯科学講座の岩崎 浩助教授が「親子でつくる子どもの健康な歯」と題して講演した。幼児を連れた母親などが参加、

なかにはこの講演のために長野市からわざわざ駆けつけた女性もあり、子どもの歯のケアに対する関心の高さが伺えた。

岩崎助教授は冒頭で、幼児期からの乳歯のケアが不十分だと永久歯にも悪影響を及ぼすことを説明し、「保護者は常日ごろ、わが子が齲蝕(虫歯)や歯周疾患にならないように定期検診や正しい生活習慣を心がけ、予防努力をしてください。もし罹患した場合は早期の発見と治療が大切です」と訴えた。

次いで、齲蝕と歯周疾患のリスクファクターを述べ、その予防策としてシウガコントロールやブラークコントロールなどについて解説した。子どもに甘味を与える際は果物や焼きイモなどの自然素材がよいこと、清

涼飲料水の過剰摂取を控え、間食は回数を抑えることなどをアドバイス。また、代用甘味料としてはキシリトールの齲蝕抑制効果をあげ、「甘味料のキシリトール含有量が五十パーセント以上だと予防効果は高くなる」と話した。

さらに岩崎助教授は、「子どものみの歯磨きでは歯垢除去が不十分になりやすいので、その補助的な役割として保護者による仕上げ磨きを行ってほしい」と呼びかけ、歯ブラシの選び方や持ち方、正しいブラッシング法のポイントについてもDVDの映像を交えて分かりやすく説明した。

会場では熱心にメモをとる聴講者の姿も見られ、講演後に開かれた個別相談会も好評を博した。参加者たちは「親として日頃からわが子の歯が健康かどうかを意識していなければと痛感した。生活習慣に気をつけていきたい」、「がんばって仕上げ磨きをしてあげたい」と感想を語っていた。

「元気か?」といった声掛けと、相手の言葉の背後にある「心」の内容を聞き取る能力、「心の知能指数」を養う必要性を話された。また、相談されたときには、部下の悩みや苦しみを素直に聴いてやり、一緒に考えることが大切だと説明した。

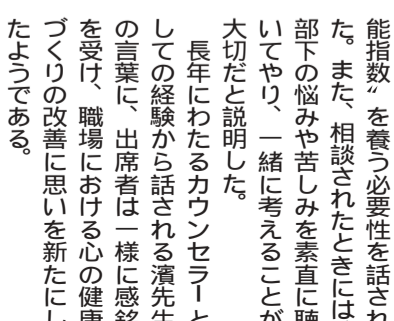
長年にわたるカウンセラーとしての経験から話される濱先生の言葉に、出席者は一様に感銘を受け、職場における心の健康づくりの改善に思いを新たにされたようである。

## あなたは「心」が聴けますか? メンタルヘルスケアに関するセミナー開催

メンタルヘルスに関する管理監督者研修が、長野産業保健促進センター相談員の濱 幸男先生をお招きし、十一月二十八日(月)に行われた。

会場となった六一教室には、教職員約百人が出席し、メンタルヘルスの現状や管理監督者の責任とその範囲、部下からのサインとその対策などについて指導を受けた。

濱先生は、相手の立場に立ち、思いやりをもってコミュニケーションをとることの大切さを説き、職場においては、上司から部下への何気ない「よくやった」



思いやりの心を指導する濱先生

第三種郵便物認可

### 大学院セミナー

12月は6回の大学院セミナーが開催され、そのうちSiar Chong Huat先生のセミナーを紹介します。

- ・6日 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科生体機能生化学 上原俊介先生
- ・8日 長崎大学医学部歯学部附属病院(むし歯・歯周病治療室)講師 吉村篤利先生
- ・9日 北里大学医学部解剖学教室教授 山科正平先生
- ・12日 明海大学歯学部歯内療法学分野講師 高橋慶丈先生
- ・15日 愛知学院大学歯学部歯科保存学第三講座講師 吉成伸夫先生

## The Sumatran Earthquakes and its Impact on Human Lives (スマトラ地震と生活への衝撃)

マラヤ大学歯学部口腔病理学教授  
Siar Chong Huat 先生



講演するシア先生

大学院セミナー(2005年12月2日)に、マレーシアからマラヤ大学歯学部口腔病理学教授 Siar Chong Huat 先生をお迎えした。Siar 先生は2000年に岡山にて開催されたアジア学術セミナーに参加されてから頻りに来日され、日本口腔病理学会や硬組織再生生物学会に積極的に出席されている。また、先生は本年9月に硬組織再生生物学会賞(Hard Tissue Regenerative Biology Award)を受賞。本邦の口腔病理学研究者との親交が深く、筆者の川上とも共同研究を行っている。今回は、共同研究の打ち合わせのための来学に併せてこのセミナーをお願いしたのである。演題は先生の専門分野とは離れているが、無理にお願いしてスマトラ地震の生活に与えた衝撃とその悲惨さについて報告して頂いた。

本題に入る前に、この地域の生活水準の低さなどを指摘し、それが故にこの地域に起った巨大地震の衝撃が極めて悲惨であることを強調した。さて、地震は2004年12月26日、インドネシア、スマトラ島の北部西海岸から60 kmの海底に起きた。これによって発生した最大30 mにも及ぶ「津波」はインドネシア、スリランカ、インド、タイ、マレーシア、遠くはアフリカ大陸にまで及んだ。その結果、正確には数えられない程の甚大かつ悲惨な被害を与えた。インドネシアの32万人を超える死者・行方不明者を筆頭に、海外からは旅行者が主体であるが、ドイツ人619人とスウェーデン人の575人が多く、日本人93人などを合わせて40万人以上の命を奪い、生活の基盤である農業や漁業の施設と機材ならびに住居を一瞬の内に崩壊させてしまったのである。11カ月が経過した現在、今なお160万人を超える莫大な数の人々が極めて劣悪な急場しのぎのバラックに住んでいる。その再建と共に、食糧、清潔な飲料水さらには医療など、一層の国際支援の必要性を訴えられた。

(大学院硬組織疾患制御再建学講座 教授 川上敏行)

### 最終講義のご案内

本年度末で定年退職される先生方の最終講義が次の日程で行われます。学内外からの多くの方の聴講をお待ちしています。

口腔衛生学講座・近藤 武教授  
「口腔衛生学の講義で伝えてきたもの」  
1月20日(金)10時40分~  
講義館202教室

歯科保存学第1講座・太田紀雄教授  
「私と歯周治療学の歩み」  
1月26日(木)14時40分~  
講義館202教室



本学だけでなく、地域の方々の冬の風物詩にもなっている松本歯科大学イルミネーションの点灯が、十一月二十八日(月)より始まった。今年で十三年目を迎えたこのイルミネーション、昨年から電飾に青白い光を放つ発光ダイオード(LED)を使用しているため、見る者に美しい「雪の結晶」をイメージさせる。使用したLEDの数は昨年より一千球

多い一万二千球にも及んだ。大病院を訪れる患者さんのひとりには「毎年楽しみにしているこのイルミネーションの点灯が始まると、いよいよ今年も暮れていくんだなと実感します」と話してくれた。点灯期間は、創立三十年記念棟中庭のイルミネーションとも一月末日まで。

### イルミネーション

### 冬の風物詩

## 中田 稔特任教授が松本市で講演 「噛む」ことの大切さをアピール



講演する中田先生

松本市の産業界における卓越した技能者として、業界の発展や後継者の育成に貢献してきた方々の功績を称える第三十三回松本市技能功労者の褒賞式典が十二月四日(日)、長野県松本勤労者福祉センターで行われ、式典終了後、本学特任教授・中田 稔先生が、菅谷 昭松市長をはじめ受賞者やそのご家族、各種技能団体関係者など約八十人の出席者を前に、歯と健康づくりに関する記念講演を行った。

受賞者の平均年齢が六十歳以上ということもあり、中田先生は「噛めば噛むほど、健やかに」という演題で、「噛む」という行為がいかに健康を保つのに大きな役割を果しているかを分かりやすく講演した。先生は、五十歳代から六十歳代にかけて歯周病により歯を失うケースが増えていること、また歯の健康が、見る・聴くといった感覚的なものから全身の健康状態にも大きく関係している

## 更なるステップアップをフォロー 三者面談開催

本年度第二回目となる三者面談が体育館において十二月三日(土)、開催された。この三者面談は、学生とご父

母と大学が連携を取り合い学生たちの大学生活をフォローする趣旨から行われている。今回は第一学年から第五学年までの学生とそのご父母が対象となり、これまででは最多の三百七十六組が参加した。今回は、一部の学生の指名参加に加え、来年度内の完成を目指す工事が進められている学生寮新設が背景となつて、低学年を中心とした参加組数の増加に繋がったようである。

まず、各学年の正副学主任と正副クラス主任が個別に学生・ご父母と面談。第一学年から第四学年には、前期授業におけ

ことをデータで示し、いつまでも歯を大切にし、しっかりと咀嚼することが、身体機能や脳の働きを活性化させ、安定した精神状態を保つことにも繋がると解説した。そして、受賞された方々に歯の健康を再認識して

ただ、地域産業の発展と後継者の育成のため、心とからだを生き生きと、いつまでも「活躍」していきたい、と結んだ。講演の終りには出席者から大きな拍手が送られ、菅谷市長からも謝意が述べられた。



担当教員と面談する学生と保護者

学病院で臨床実習を行っている第五学年には、これまでの実習の取り組み状況、早期テストの結果などを基に面談が行われた。さらに科目ごとの詳細な情報を希望する方については、科目担当の教員が面談した。今回の面談のなかで、ご父母から新設学生寮に関して数多くの質問が出されている。特に現ハイッ入居者からの質問が目立ち、寮完成の時期、費用や早期入居の希望など、生活面における関心の高さがよくうかがえた。この面談をもつて、学生本人・ご父母・大学ともに、さらに確実な基礎固めができるよう今後の学生生活と次の学年に向けたステップアップを図っていくことになる。

### 松本歯科大学大学院 2006年度入試日程(2次募集)

募集人員：10人程度(社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜を含む)  
試験会場：本学(実習館) 入学検定料：30,000円  
試験科目：一般選抜=外国語(英語)・面接 / 社会人特別選抜=面接  
外国人留学生特別選抜=語学(日本語または英語)・面接  
出願期間：2006年2月6日(月)~2月17日(金)  
出願資格の審査が必要となる場合があります。事前に問い合わせの上、手続きをしてください。  
試験期日：2月24日(金) 合格発表：3月2日(木)  
問い合わせ先：松本歯科大学大学院事務課 TEL 0263-51-2216・2217



| Economic News   |             | 内外の経済 12月15日付 |               |
|-----------------|-------------|---------------|---------------|
| 日本              | 15 254 44円  | 米ドル           | 116 50円 2.36% |
| 米国              | 10 881 67ドル | 英ポンド          | 205 50円 1.93% |
| 金地金店頭価格(消費税込み)  |             | ユーロ           | 139 05円 0.67% |
| 売り(1グラム)        | 2 028円      | スイスフラン        | 90 20円 0.01%  |
| 買い(1グラム)        | 1 966円      | タイバーツ         | 2 84円 0.01%   |
| 白金地金店頭価格(消費税込み) |             | 日円            | 0.02%         |
| 売り(1グラム)        | 3 851円      |               | (シティバンク調べ)    |
| 買い(1グラム)        | 3 726円      |               |               |

- 4日(水) 授業再開(第6学年)
- 10日(火) 仕事始めの式(教職員)
- 10日(火) 授業再開(衛生学院)
- 10日(火) 卒業試験(歯科理工科第2学年)
- 10日(火) 卒業試験(歯科衛生科第2学年)
- 11日(水) 卒業試験(歯科理工科第2学年)
- 11日(水) 授業開始(第1~4学年)
- 24日(火) 臨床実習再開(第5学年)
- 29日(日) 中康夫客員教授公開講義
- 31日(火) 創立記念日(34周年)
- 31日(火) 中康夫客員教授公開講義

### 1月行事予定

受験生の皆さんへ  
見せてほしい 君の個性 君の情熱

一般入試(前期)  
2月2日(木)  
出願期間 12月5日(月)~1月20日(金)  
試験会場 本学・東京・大阪

一般入試(中期)  
2月28日(火)  
お問い合わせ  
HOT LINE 0263 54 3210  
松本歯科大学 広報課  
www.mdu.ac.jp